

学校と地域の協働実践セミナー 上北地区研修会

平成28年9月7日(水) 七戸中央公民館 参加者32名

学校と地域の協働実践セミナー上北地区研修会が、9月7日(水)七戸中央公民館で開催されました。

今回は講師に弘前大学教育学部教育支援コーディネーター 特任助教 齋藤 厚 氏をお迎えして、学校の現状や学校を支えるためのボランティアの必要性などについてお話していただきました。

現在の学校や子どもを取り巻く地域及び社会の現状

近年、子どもたちの遊び場の減少や体験活動の減少、保育園を“迷惑施設”という近隣住民など、子どもを取り巻く地域や社会が大きく変化しています。同じように学校も、様々な子どもたち、多忙な先生方、新たな学習内容など、先生方だけでは対応できない状況になってきています。そこで、学校を支援する地域の人材(学校支援ボランティア)がますます重要であると言われています。



学校支援ボランティアとは？

「子どもたちのために役に立ちたい」という熱い思いを持って、学校の教育活動や環境整備などを支援するボランティア活動のことで、学校の要請に応じて、『できる人が、できるときに、できることを支援する活動』です。

学校でボランティアを活用することにより、以下のような効果が期待されると齋藤先生は話していました。

〈ボランティアにとって〉

- ・専門的な知識や特技を活かすことで「**自分の中の教育力**」に気づき、**考え方が深まり、人間性が豊か**になる。
- ・**学校での子どもたちの様子**がわかり、学校や子どもたちとの**つながり**がもてる。
- ・**向上心**が芽生え、地域住民として子どもたちの未来に責任を感じることができる。

〈子どもたちにとって〉

- ・ボランティアの方々との活動をとおして、**社会性やコミュニケーション能力**が育まれ、**豊かな人間性**を培うことができる。
- ・ボランティアの方々の専門的な知識や技能に触れることにより、**学習意欲が高まり、自ら問題解決しようとする能力**が育まれる。



〈学校にとって〉

- ・ボランティアの方々の専門的な知識や技能を活かした身近で、**内容豊かな授業**が展開できる。
- ・学校や子どもたちの様子を地域の方々に理解してもらい、**学校と地域がつながる**になる。

〈参加者から〉

- ・いっぱいいっぱいの状態である学校現場の様子を、地域の方を始め、多くの人たちに知ってもらう機会として、大変有意義な内容だったと思います。
- ・地域の方や、ボランティアの方のご協力のお陰で成立している活動や学習がたくさんあることを、改めて感じました。

〈講師紹介〉



齋藤 厚 氏 弘前大学教育学部卒

2008年 弘前市立朝陽小学校 校長(2011年3月定年退職)

2011年～ 弘前大学教育学部 教育支援コーディネーター 特任助教